

きずな

第44号

平成25年9月10日

9月の予定
 9月29日(日) 9:00~14:00
 福祉ねっとまつり
 「みんなのファッションショー」
 村環境改善センターにて
 九十九里福祉ねっと主催



第6回子ども平和コンサート開催



上、オカリナの演奏と詩の朗読
 右上、難民を助ける会の小田さん
 右下、戦争体験者、吉原輝子さん
 下、ダンスを披露する子どもたち

一部では戦争体験者、白里在住の吉原輝子さんに戦時中の体験談を、難民を助ける会の小田さんに、シリアからトルコに避難してくる子どもたちの様子をお話していただきました。子どもたちも、真剣な面持ちで話に聞き入っていました。

二部は子どもたちからの発表です。自分たちが出来る平和へ

子育て支援ネットワーク協議会では、毎年8月6日に子ども平和コンサートを開いています。広島市の平和記念式典の黙祷に合わせて黙祷し、コンサートが始まります。



のメッセージ、戦争にまつわる詩の朗読やお話しの群読、笑顔をお届けするダンスなどを披露。その後見に来られた方もまじえて感想会を行い、コンサートの感想やご自信の戦争話など話しました。また、今年初めて第三部を午後延ばし、毎年恒例の、松本卓也さんのコンサートを行いました。少し時間は長いのですが、そのおかげで内容の充実したコンサートになり、見に来られた方にも好評でした。

子育てネットワークでは、毎年このコンサートを開いています。運営の手伝いや二部の発表に出してくれる子どもたちを募集しています。来年は、あなたも参加してみませんか？



終戦の二日前、成東駅に停車中の弾薬を積んだ貨車に、米軍機からの機銃掃射を受け火災発生、駅員と将兵合わせて四十二人が爆発を防ごうと

知っていましたか？ 成東駅爆破事件

消火作業を行ったが間に合わず爆発、水を汲みに行っていた一人を残して全員死亡。駅員の中には十三から十九歳の若い方も多くいました。

八月十三日には、爆破時刻に合わせて追悼式が行われています。今年は戦争体験語り部の大網白里市の会員も式典に参加、献花台に花を捧げてきました。



「ゆめの木」運営事業

児童館設立プロジェクト

子育ての孤立化（孤育て）や少子化、核家族による異年齢交流、多世代交流の機会が減少していることから、未就学児の親子、児童、生徒、一般住民が誰でも参加でき、幅広い交流が行える居場所を作っています。

活動場所

- ①大網白里市富田1392-8
毎週水・木曜日 10時～15時（参加費 100円）
②中部コミュニティセンター
第3日曜日 10時～12時（参加費無料）



- ③出前ゆめの木 参加費無料
（中部コミュニティセンターにて）
毎月第1金曜日 10時～12時
（9/6. 10/4. 11/1. 12/6. 2/7. 3/7）

住民協働事業運営支援及び協働体験実施事業

大網白里まちづくりサポートセンター

市民活動団体と住民協働事業に携わる団体相互の連携を図ると共に、協働についての理解が深まるように体験活動の場を提供しています。特にこの秋には、様々な活動を体験できるように計画しています。また、住民協働事業実施団体の進捗状況の確認のための、定例会を開き、相談・助言など行っています。

まちサポのホームページでは、各住民協働事業の内容を確認出来るほか、いろいろな市民活動団体の情報が満載です。是非、ホームページもご利用下さい。



定例会の様子



駅前広場の環境美化事業

大網白里ユニバーサル

就労支援の会

駅前広場の美化保持活動及び駅前トイレの維持管理を行います。駅前広場の美化保持活動を通じて、就労困難者の就労移行支援を行い、社会的経済的自立を目指した活動を行っています。

最近では、駅前のトイレがきれいになったと評判も良く、気持ちよく利用してもらえるようになって来ていると思います。そして、この活動を通じて、一人の方が自立出来そうになってきています。

健康増進と介護予防のための「いきいき教室」全市展開事業

健康増進と介護予防のための

「いきいき教室」全市展開事業

NPO 法人住み続けたいまちづくりの会

高齢者を中心に全市に対し、正しい食事・運動に笑いヨガリーダーを育成し、市と協働し、包括的な健康増進・介護予防プログラムである「いきいき教室」を「民・民」連携の中で、提供する活動を行っています。現在、笑いヨガリーダーを25人育成し、それぞれが思い思いのところで、笑いヨガの指導を行っています。これからは、社協のサロンや敬老会などを通して笑いヨガを広め、多くの方が笑いヨガの体験ができる機会を増やしていきたいと考えているところです。笑いヨガはインドが発祥の地で、今や世界に広がっています。テレビ等でご存じの方もいるでしょう。是非体験して下さい。体も心もリフレッシュ出来ますよ。興味のある方は、連絡いただければ、いつでもリーダーを派遣します。ご一報下さい。

高齢者を中心に全市に対し、正しい食事・運動に笑いヨガリーダーを育成し、市と協働し、包括的な健康増進・介護予防プログラムである「いきいき教室」を「民・民」連携の中で、提供する活動を行っています。現在、笑いヨガリーダーを25人育成し、それぞれが思い思いのところで、笑いヨガの指導を行っています。これからは、社協のサロンや敬老会などを通して笑いヨガを広め、多くの方が笑いヨガの体験ができる機会を増やしていきたいと考えているところです。笑いヨガはインドが発祥の地で、今や世界に広がっています。テレビ等でご存じの方もいるでしょう。是非体験して下さい。体も心もリフレッシュ出来ますよ。興味のある方は、連絡いただければ、いつでもリーダーを派遣します。ご一報下さい。



連絡先 53-6611（山尾）

お世話になっていきます。

毛糸・手芸・生地・化粧品
ぷち・はんず
大網白里市大網32-5
0475-72-0394

安藤正義税理士事務所
大網白里市仏島91
0475-72-6188

トップマート大網店
大網白里市大網84-4
0475-70-2058

郷土の歴史-17

絵馬に観る人々の願い（その5）

～「絵馬の歴史」と「大網白里市の絵馬」～
大網白里市郷土史研究会会長
古山 豊

画題について

江戸時代中期以降は、武士から町人・商人の時代で文化の庶民への浸透化が挙げられる。当然農民が圧倒的に多い時代であるが、比較的生活にゆとりを持った庶民層の台頭は庶民文化の向上と結びついた。よって「伊勢宮参詣図」「富士登山の図」（写真5）「出羽三山の図」「善光寺詣の図」なども奉納されるようになってきた。特に、関東周辺では富士信仰が盛んとなり、無事に登山を果たすことができたお礼に奉納された図が多い。

江戸時代の享保年間（1716～36）には富士信仰は民衆を主体とする宗教に成長し、民衆宗教としての教義を確立していった。信仰は中下層の商人・農民中心の講であったが、幕府は同業者の相互扶助的な色彩を疑い、寛保2年（1742）以後、度々禁止令が出されたが、その後も富士講の勢力は衰えることなく続いた。

このように庶民文化の台頭に伴い、江戸時代には多数の絵馬師・絵馬屋が都市部に存在し人々の注文に応じていた。



（写真5「富士登山の図」清名幸谷、御嶽神社）

**「熱中症声かけ予防運動」に
今年も参加しています。**

★ひと涼みシェアを実施します。

★熱中症対策飲料冷やしてあります。

買い物途中に、まちサポで休んで下さい。

家電故障の顛末

まちサポ理事 田邊 宏雄

我が家の全自動洗濯機が8月のはじめ突然ウンともスンともいわなくなった。真夏ということもありしばらくの間毎日手洗いを強いられることとなった。

購入先の電気店からの手配で、メーカーの技術者に来てもらう事となった。原因は不明である。多分基板・マイコンに原因があると思われる。メーカーの技術者は洗濯機の銘番を見て、この製品は13年以上使っておりすでに部品供給が出来ない、点検は無駄ですとのご宣託である。出張費だけは請求される。

この洗濯機は以前にも不具合が生じ、対症療法的にまず、販売店が基板の交換を行うも復旧出来なかった。その後、メーカーの技術者が来て、水位検出のプロープが腐食で破損したためと判明、部品交換となった。これは、メーカーの部品設計（材質選定）に問題があった訳である。多分多少のコストアップをけちった結果であろう。この一連の対応もすべて有償であった。

最近の家電は自動化などでマイコンによる制御を行い、機械内部のブラックボックス化が進みユーザーが故障などの場合手出し出来なくなっている。また基板などの回路部品ひとつの故障でも交換が困難になっている。メーカーは通常情報公開を行っておらず、知られることも歓迎出来ないことなのであろう。

家電を長く大切に使うことができる環境が失われていることを痛烈に認識される出来事であった。

今回の経緯から代替機は自動洗濯機ではなくアナログ色の濃い2槽式洗濯機を選択した。気になっていた洗濯用水の削減も可能になることを期待している。

田邊さんのエコライフ講座が始まります。

まちづくり未来塾より新講座スタート!

「明日のエコライフを考える」

これからの生活は化石エネルギーの使用を抑制する低炭素社会に向かいます。身近な生活の中でエコライフを考え、ライフスタイルを変えてゆくためのヒントについて話します。

日時 11月12・19・26日（火）

13:30～16:00

講師 講師 田邊 宏雄氏

（環境会議おおみしらさと21代表・

千葉県地域温暖化防止活動推進員）

受講料 1,000円 まちサポにて

防災研修旅行報告 (銚子・旭市(旧飯岡町))



大網白里市聴覚障害者協会 大網白里市手話サークル歩み

6月29日に我が住む県の被災地にての防災研修旅行を昨年の宮城県亘理町に続いて実施しました。議員・防災担当の市職員の方々も含め総勢26名でたくさん回りました。うおっせ21で昼食、復興支援のお土産を買い、午後より刑部岬展望館にてミニ講演「飯岡津波を考える」を受講し、忘れ時の時計（津波時刻で止まったJA飯岡の時計の保存の課題）については、被災の夏にまちサポでも扇風機を届け、止まったJAの時計を見えています。時計の存在は鮮烈ですが、保存であれば千葉県としての保存が適切かと思われます。次に講師が障害者の人達の避難について語られたことは、避難所に来たりするのを遠慮されるが、例えば停電の時には目の見えない人が暗闇でも歩けるノウハウを活かしたりが出来るので「災害弱者」でなく活かしあうことで災害を乗り越えられることを知り得たので未だにテレビで「災害弱者」と使う言葉に疑問を感じると述べられていました。災害を通して障害の理解と防災についても更に前に進めて行けたらと願います。他に仮設住宅や津波避難タワー（階段とスロープ付）旭市三川実際に上りました。機器設置の見学では、電光掲示板の設置がされている場所を数箇所見学し聴覚障害の人たちにとって命綱に近いものであり、また、津波標識も黄色で目立つ標識になっており大網白里市にかえてから多めに参考になり、防災について色々なジャンルの人達と今後も十分に話し合いを積み重ねて最善の防災を築き上げられたらと希望致します。（記事：林）

協働のまちづくりを学ぶ



住民協働事業の一環で、協働のまちづくり講座を、安藤雄太先生をお迎えし行いました。安藤先生は、協働の現場の裏も表も知り尽くした、協働に関するスペシャリストとして研修や講演などで全国を駆け回っていらっしゃるお忙しい方ですが、縁あってキックオフに続いて2度目の来方がかなくなりました。実践を重ねているだけに、説得力のあるお話しに、受講生も楽しく学べました。講座の後は、先生の好物のお酒を飲みながら、いろいろな事例など伺い、まちサポのこれからなどを話しました。

「協働」とは、官と民、民と民同士が課題を共有しあい、解決のためにそれぞれの持ち味を生かして協力し合う事です。協働の意味のわからない市民はまだたくさんいます。これからも、中間支援としてのまちサポの果たす役割は大きいものと、講座を受けて改めて感じています。



あみくん、さぽちゃんの大網白里★あれこれ

先日、山武杉をメインに使った家の内覧会がありました。一步入ると木のいい香りがし、その感触の優しいこと。最近ハウスメーカーで企画された住宅が多いので、建具から手作りするという、とてもうらやましいすてきな家です。手入れは大変でしょうが、手間をかけることで木の色にも味わいが出て、楽しく暮らせることでしょう。

昔は山武杉も建築材として重宝がられていましたが、今では使用数も減り、山武郡市内の里山も手入れされることなく荒れてきました。また、病気も出てきたそうです。そんな里山を元に戻そうと動き出している方々もいます。今回の住宅も、そんな方々の成果でしょうか。山武杉の魅力をもっとたくさんの方に知ってもらいたいと思います。

何を隠そうまちサポも5年前にトイレの改装をしたとき、腰壁の板に山武杉を使ってもらいました。最近香りは薄らいでしまいましたが、時折山武杉の香りを感じることが出来ます。